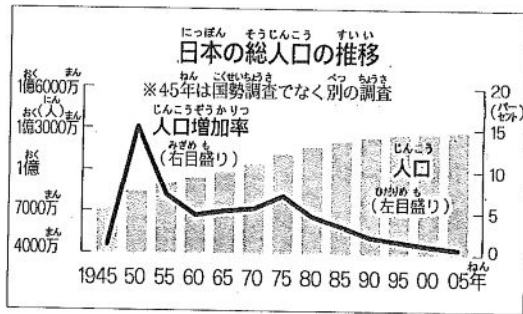


(1)



(3)

日本の総人口は一億二千七百七十六万七千九百九十四人(昨年十月現在)で、その一年前の推計人口から約二万二千人減りました。総人口が前の年を下回るのは、第二次世界大戦が終わって以降、初めてです。日本が「人口減少社会」を迎えたことがはっきりしました。

●国勢調査で確認

総務省(国の役所の一つ)は五年に一度、人口などの全国一斉調査をしています。国勢調査です。昨年十月に実施したこの国勢調査の結果が最終的にまとまって、人口減少がはっきりしたのです。

今年十月の推計人口は一億二千七百七十五万人です。国勢調査の結果よりもさらに約一万八千人減っており、人口減少が続いていることが分かります。

今回の総人口は前回の国勢調査(二〇〇〇年)より八十四万人余り増えています。ただ、増えた割合はわずか〇・七割で、国勢調査が始まった一九二〇年以来最低でした。

●15歳未満13割

お年寄りの割合が増えて、若者や子どもの割合が減っています。総人口の中で老人人口(六十五歳以上)は二〇・一割を占め、これまでの国勢調査の中で最高でした。逆に年少人口(十五歳未満)は一三・七割で、最低です。少子高齢化が進んでいるのです。

●32道県で減少
四十七都道府県

県ごとに見ると、秋田など三十二道県で前回の国勢調査よりも人口が減りました。逆に増えたのは、東京など十五都府県だけでした。

年少人口のほうが老人人口より多かったのは、沖縄県だけ。前回の調査では六県ありました。少子高齢化が全国に広がっています。

●外国人は最多に
総人口は減っても、その中で外国人は増えていきます。百五十五万五千五百五人で、これまでの調査で最も多いです。総人口の中に占める割合も一・二割で、戦後最高でした。